

みんほんしゅぎ はっぴょう

# 民本主義を發表 (38歳)

1914年(大正3年)、作造は東京帝国大学の教授になりました。そして、「民本主義」という考え方を発表し、これからは国民のために、国民の考えにもとづいて政治をしなければならぬと説きました。作造の考え方は日本じゅうに広まり、作造は「大正デモクラシー」とよばれる自由な社会のリーダーになりました。

たとえばクラスの代表をえらぶときに、自分だけ仲間はずれにされたらイヤだね。国の政治もおなじ。みんなにとってたいせつなことを決めるときは、みんなが責任をもって参加するべきなんだ。



## 憲政の本義を説いて

### 其有終の美を濟すの途を論ず

法學博士 吉野作造

去年十二月一日より東京に開かれたる全國中學校長會議に於て、高田新文相が特に訓示を與へて立憲思想養成の急務を説きたる事と、水戸中學校長菊池謙二郎氏が起つて大隈内閣の居据りと立憲思想との關係の説明を求めて文相に肉薄した事は、著しく世間の耳目を惹いた。訓示の一節に曰く。

(上段) 中等教育ニハ種々ノ方針アルベキモ、余ノ見解ヲ以テスレバ、立憲思想ノ養成ヲ剩下ノ急務ナリト信ズ。我國

從來歴代の文部當局者も中學校長會議に同様の訓示を發せし事之れまであつたか如何かは、予の明知せざる所なれども、多年野に在りて立憲思想鼓吹の必要を唱へ來りし高田氏の事なれば、今度

ニ於テハ、憲法施行以來日尙淺ク、國民ノ憲政ニ通セサルコトハ過般ノ總選舉ニ於テ見ルニ明ナリ。立憲政治ノ運用ヲ憲マラサルト番トハ、國家ノ重大問題ナレバ、特ニ中等教育ノ任ニ當ルモノハ充分其點ニ關シ留意セラレシコトヲ希望ス(下略)。

「憲政の本義を説いて其有終の美を濟すの途を論ず」1916年(大正5年)1月  
……作造が「民本主義」の考えを發表した論文。『中央公論』という雑誌にのりました。